

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971400201		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム グレース (東)		
所在地	奈良県生駒郡平群町越木塚336-1		
自己評価作成日	平成24年11月30日	評価結果市町村受理日	平成25年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=2971400201-00&PrefCd=29&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、自然に恵まれた高台にあり、四季折々の風景をご利用者様に楽しんで頂いております。又、併設する同法人が運営する特別養護老人ホームもあり、重度化への安心へと繋がっています。又、ご利用者様の希望、家族様の希望もあり、看取り介護を医療体制との連携を図りながら積極的に取り入れています。利用者様、ご家族様に安心して毎日を過ごして頂けるよう、個人の尊厳と寄り添う介護を心がけています。又、時間に関係なく面会の時間を設けている事から、ご本人様はもちろん、ご家族様、友人の方々からも喜んで頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は近隣に交流できる住宅がないため、職員は町の広報誌などから地域の情報を得て、敬老会や文化展など様々な行事に利用者と共に参加して行き、利用者が地域と繋がりがちな暮らしを支えています。様々な働きかけを通して似顔絵や絵手紙、三味線など、多くのボランティアがホームを訪れており、交流が広がっています。ホームは家族の面会も多く、家族交流会の実施や家族と一緒に参加する外出行事などの機会を持つ事で家族と良好な信頼関係が築かれています。家族からは率直な意見や要望が出されており、職員は小さな意見も大切に聞き、速やかに改善に努めています。職員は利用者を尊敬し、心地よく過ごしてもらえるように努め、利用者の自立支援に向けた歩行訓練や散歩、外出行事などを多く取り入れて利用者の身体機能が維持できるよう支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ショート会議やグループ会議の中で、勤務年数に関係なく、日頃から理念について話し合い、共有できるよう心掛けている	職員間で意見を出し合いユニット毎の特徴を活かした理念を作成し、来訪者にも見やすいよう玄関に掲示しています。新人職員には理念の意味を説明し、会議など機会ある毎に職員間で話し合い、日々の支援を確認しながら実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り、近隣の小学校の運動会やバザーに参加して交流を図っている	近隣に交流できる住宅がなく、町の広報誌などから情報を得て、文化祭やコンサート、敬老会などへ積極的に出掛けて行き交流を持っています。ホームの納涼会や交流会は民生委員などの参加を得て共に楽しんだり、様々な働きかけを通して、絵手紙や似顔絵、三味線など多くの地域ボランティアが訪れており、交流が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の敬老会等に参加して、認知症の理解に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の活動報告や認知症に対する勉強会も含め、行政、他施設の意見を聞いた上で今後の課題に役立てている	会議は家族や地域住民、民生委員や町の担当者、他事業所関係者などの参加を得て開催しています。行事と合わせるなど工夫しながら開催し、活動報告やスライドを用いて利用者の生活の様子などを見てもらっています。参加者からは活発に意見が出されており、認知症の勉強会に繋がるなど有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課や地域包括センターの方にも、できるだけ行事に参加してもらう事により、理解、協力関係を築くようにしている	町の担当者とは、日頃から関わる機会も多く、運営推進会議に参加を得たり、ホームをよく訪れており、実情を知ってもらっています。交流できる他施設を紹介してもらったり、様々な情報をもらうなど良好な関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、研修を含めて知識を得ることにより、意識向上とサービスに努めている	職員は身体拘束に関する外部研修を受講し、会議時に伝達して話し合い、全職員が周知できるよう努めています。玄関は施錠していますが、外出希望があれば付き添って一緒に出かけ、拘束のないケアに努めています。日頃から外出の機会を多く持っており、閉塞感のない自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止について会議の中で話し合い、個人の尊厳について話し合いを行っている		

グループホームグレース(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当グループホームでも後見人制度を利用されている方もいるので、支援に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、理解して頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事開催時にアンケート調査を心がけ、支援の課題として職員同士で共有している	家族の来訪が多く、コミュニケーションをとる中で直接意見や要望を聞いたり、行事の際に実施するアンケート調査などでも様々な意見が出されています。意見を受けて暖房の効きをよくする為の設備を整えたり、利用者全員で針仕事を行うなど、小さな意見にも速やかに対応し、改善に取り組んでいます。取り組みの結果については運営推進会議などで報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループ会議の中で意見を聞き、今後の課題としている	職員は各種会議や連絡ノートを活用して意見や提案を行っています。利用者の支援方法など積極的に意見が出されており、出された意見は話し合いの上で実施し、1ヶ月後に職員間で再確認の上、その後の方針を決めるなど、意見が反映できるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員から正職員への雇用制度も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にできるだけ参加できる機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に参加したり、近隣施設の運営推進会議にも積極的に参加している		

グループホームグレース(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の生活の中で、気軽に話し合える雰囲気作りを心がけ、全職員と会議の中で話し合い、解決に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に意見や希望を聞き入れてサービス向上に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを受け入れ、必要に応じてカンファレンスを開催して対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい生活が保てるように常に配慮している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちや理解を深めながら支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等の面会や外食は積極的にすすめている	入居前に住んでいた近所の方や女学校時代の友人などの訪問があった際は、部屋でゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。入居前のサークル活動の仲間と交流される方や毎週家族と教会へ通ったり、教会の方と一緒に外出されています。家族と結婚式への参加や墓参りなどへ行かれる際は、家族と連絡を取ったり、身支度などを支援しています。家族に利用者の思いを伝えながら馴染みの関係を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てるように、レクリエーションや外出にも配慮している		

グループホームグレース(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先にお見舞いに行ったり、手紙を出したりと近況報告を聞くことにより、本人はもちろん、家族との絆も大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の意向に出来るだけ沿った支援をしている	入居の際は利用者や家族と面談を行い、生活歴や暮らし方の希望などの情報を得たり、利用していたサービス事業者からも情報をもらい、思いの把握に努めています。日々の関わりの中では利用者の表情や生活状況などを記録に残して職員間で共有し、利用者の思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、サービス計画書を回覧し、職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の日頃の状態を把握し、全職員と共有した上で、支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ショート会議や担当者会議の中で、個々の生活歴を話し合った上で、参考にしている	利用者や家族から聞いた思いや日々の関わりの中で得た情報などを基に、介護計画を作成しています。担当者が3ヶ月毎にモニタリングを行い、看護師や栄養士も参加するカンファレンスで意見を出し合い、介護計画を見直しています。見直しの際には、利用者の現状が把握しやすいよう再アセスメントを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や生活状況を通じて、職員間で話し合った上で、介護計画の見直しに役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の馴染みの美容院や喫茶店に出向いている		

グループホームグレース(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り、生きがいを持てる支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人の希望に沿える様、努めている	これまでのかかりつけ医を継続できることを伝え、かかりつけ医を決めてもらっています。受診は家族が行い、場合によっては職員も付き添い、医師と情報をやり取りし共有しています。協力医は毎週往診があり、利用者の状態によっては往診日以外にも随時訪問してもらっています。看護師が日々の健康管理を行い、皮膚科などの他の専門医へも受診できるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に相談しながら、連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者(地域連携職員)と連携を常に図り、家族の希望も大切にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に於いては、家族、医療連携チームと何度も話し合いを重ね、最良の支援を心がけている	入居時に重度化した場合にホームで対応できる内容について説明し、利用者の状態に変化があれば、医師から家族へ説明が行われ、再度意向を確認の上、支援に取り組んでいます。管理者に24時間連絡が取れる体制を整え、職員の不安にも配慮しています。支援後は職員間で振り返る機会を持ち、今後の支援に活かす意向です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急を受講したり、マニュアルを全職員と共有している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は定期的実施している	2~3ヶ月に1度、消防署にも頻回に来てもらい、利用者と共に昼夜の想定を変えながら、繰り返し防災訓練を実施しています。法人内で協力体制を整え、職員が全員消火器を使えるよう交代で訓練を行っています。運営推進会議で訓練への参加の呼びかけや報告を行っています。	

グループホームグレース(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重した支援に努めている	外部講師を招いた接遇マナー研修を全職員が受講し、接遇について学ぶ機会を持っています。利用者と信頼関係を築く事が大切と考え、利用者の表情を見ながら利用者には不快感を与えていないかなどを確認しながら、個々に合わせた対応を心がけています。不適切な対応があれば職員間で互いに注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話しやすい雰囲気作りを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ個人の意見や希望に沿った支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、一緒に買物に出かけ、自分で選んだ衣類等を購入できる支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	佃煮や嗜好品は、個人購入してできるだけ楽しみの持てる食事時間をとる支援をしている	食事は隣接する法人の厨房から届けられており、ご飯と汁物はホームで作っています。食事に関する利用者の好みなどは、毎月の給食会議で厨房に伝えています。おやつ作りなどは利用者と一緒にいき、回転寿しやレストランに出かけたり、個別にも食べたい物を聞いて出かけ、外食を楽しんでもらっています。	職員は利用者と一緒に食事を摂っていませんが、食事時間が団らんの時となるよう、検食を兼ねて同じものを一緒に食べる機会を検討されてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士、看護職ともカンファレンスを行い、必要な栄養、水分量の確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは勿論、歯科医師、衛生士の定期的な検診も含め、必要な時は、近隣歯科医院への通院も行っている。又、月に一度勉強会も開催している		

グループホームグレース(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、トイレでの排泄を大切に考え、個人に合ったリズムを把握した上で、トイレ介助を行っている	排泄記録を参考にしながら、利用者の排泄リズムに合わせて声掛けや誘導を行い、車イスの方もトイレで排泄できるよう支援しています。タイミングが合ったトイレ誘導でオムツから紙パンツに変更になり、元気になられた利用者もあり、排泄の失敗を減らし、トイレでの排泄が維持できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを食べたり、牛乳を取り入れる等して自然排便を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴者の人数を減らすことにより、一人一人ゆったりと入浴できる体制をとっている	入浴は概ね午前中に支援し、週に2~3回を目安に、職員とゆっくり会話しながら入ってもらっています。入浴好きの方は、入浴日以外にも希望があれば入ってもらっています。拒否の方はほとんどなく、バラ風呂や入浴剤を用いて楽しんでもらったり、気持ちよく入ってもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠して頂ける様、環境を整える支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医、看護師とも連携を図り、支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各職員が利用者様のアセスメント、家族様からの情報を聞く等して個人に合わせた支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ個人の意見や希望に沿った支援を心がけている	気候が良い日は散歩に出かけたり、買い物や職員が用事で出かける際には利用者も一緒に出掛けています。ドライブや道の駅、初詣や季節の花見などに出かけたり、ミカン狩りやイチゴ狩りなどは家族にも声をかけて、一緒に出掛けています。外出できない時はテラスや表に出て外気浴をするなど、外気に触れたり、外出の機会を多く持てるよう支援しています。	

グループホームグレース(東)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方には、少額の入ったお財布を所持してもらい、買物に出かけた際は、そこから支払を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持たれている利用者様もあり、自由に電話を利用してもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんとの外出時の写真や作品を飾り、家族様にも日常の様子が見えるよう工夫している	広いリビングは利用者の書道の作品を飾ったり、季節毎の行事の写真や壁に貼り、利用者の記憶を引出すきっかけとなり、話題の提供に繋がっています。庭の花や家族が持参した花を活けたり、またホーム周辺は自然が多く、テラスでお茶を飲むなど、季節を感じながら過ごされています。一人ひとりが寛いで過ごせるよう利用者の様子からその方の思いに配慮した居場所作りなど工夫を重ねています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや食卓もあり、好きな場所で過ごして頂ける様、支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具類を持たれてきた方も多く、少しでも居心地のよい空間作りに努めている	居室の入り口に手作りの暖簾や工夫した表札を掲げ、自室が分かり易いよう配慮しています。利用者は嫁入り道具の三面鏡や使い慣れた家具、趣味の道具などを持ち込み、職員が動線などをアドバイスしながら、家族と一緒に考え過ごしやすいよう配置しています。利用者によって自宅に大切なものを一緒に取りに行くこともあります。手作りの加湿器や濡れタオル等を掛けて居室の乾燥にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの位置はできるだけわかりやすい様、工夫している		